

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.6. No.2 (2008 年度)

巻頭言

「テラテクオープンイノベーション」

テラヘルツテクノロジーフォーラム副会長
東京工業大学 井筒雅之

世界の経済が困難に直面している。金融界の未熟性が露呈して、世界経済に大きな混乱を招き、我が国の産業界も大打撃を受けている。一方、環境・資源の有限性による従来型社会システム、経済産業活動の限界が明らかになると共に、これまで経験したことの無い少子高齢化社会に突入しつつある現在、新しい政治・経済・社会体制構築に向けた模索が徐々に始まっている。少なくとも、何らかの体制変革の必要性は広く認識されるに至っている。昨年来の経済産業社会の大混乱によって、産業界の変革は一層の急務となった。ただ、旧来のしがらみに捕らわれることの多い我が国で、この急激な転換期を無事乗り越え、新しい、安心・安全な持続的発展社会に脱皮（あるいはメタモル）することが出来るのかどうか、危惧は大きい。

長期低落を予兆する様な、ある種、閉塞した社会状況の中で、社会に大きなパラダイム変換をもたらすブレークスルー技術出現への期待は極めて大きい。社会システムにイノベーションをもたらすブレークスルー技術が渴望されている。ブレークスルーに至る新技術開発には、従来型の垂直モデル（リニアモデル）に基づいて、基礎研究から実用開発研究までを一手に取り込んで、単独で解決を目指すのではなく、幾つかのセクターが手を組んで、他のセクターが挙げた成果を互いに広く活用する、オープンイノベーションの重要性が指摘され、重要性に対する認識が広がりつつある。

ブレークスルーを目標とする研究には大きなリスクを伴う。往々にして、腰を落ち着けた探査的研究が必要となる。生き残りをかけた競争社会の中で、営利を目的とする企業では、この様な長期的視野に立つ必要のある研究への取り組みは甚だしく困難を伴う。大学・独法研究機関と組み、あるいは他の企業と組み、それらで得られた革新的な研究成果を産業化に結びつける体制の構築が重要である。ブレークスルーを実現するには、産官学連携をはじめとするオープンイノベーションが不可欠である。

オープンイノベーションには、学術指向的な研究者と、技術応用指向の研究者、あるいは、大学、独法研究機関、企業における研究者、ベンチャー・起業研究者、さらには、様々な学術研究の中からイノベーションの芽を見いだし育て上げるイノベーター（すなわち